

仏様のおはなし新シリーズ第113集「あきらめる」

「あきらめる」という言葉があります。皆さんも、この1年半は色々なことをあきらめられた1年半ではなかつたでしょうか？お寺でも、法要が開けないと、婦人会が開けないと、色々な機会をあきらめる日々が続いています。

以前、手術を受けたご門徒さんから、こんな事を言われました。「若院さん、今まで当たり前に出来ていた、本当に簡単と思える動作が、全然できんくなつたとです。これは死ぬまでこのまま抱えていかないかんとです。私はもうあきらめとります。」と。一見、健康な時とほとんど変わらないように見えたのですが、とても辛そうに話をされていたのを覚えています。この「あきらめる」という言葉ですが、本当は「物事を明らかに見ていく」という所から来ていると聞いた事があります。そして、「あきらめる」の漢字の意味を辞書で調べてみると、「道理、悟り」と書いてありました。それは、私たちが普段よく使つている「物事を断念する」というネガティブな意味とは違つてくるように思うのです。

お釈迦様は「人間は、老いるし、病気になるし、死んでいかないといけない」という、いわゆる生老病死の自覚により道理を示されましたが、それは「人間には、どうもがいても変えられない事があるんだよ、人間は限られた時間や限られた条件の中で生かされているんだよ。」という事を教えてくださいます。翻つて言えば、「限られているからこそ、その時間や与えられた命を大事に、そして、懸命に生きてください。」というメッセージとも受け取れます。

普通、人から「あきらめろ」なんて言われると、少し落ち込んだりしますが、そういうメッセージと思ったら、逆に力が湧いてこないでしようか？

新型コロナによつて、様々な制限を受けて、正直、不自由を感じずにはおられませんが、「あきらめろ」と言い聞かせながら、今自分にできることをやらせていただき、お念佛してまいりたいと思います。



福岡組 検索